様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２８２４

研究課題名（和文）ポップカルチャーを中心とした天皇・皇族・皇室表象の研究

研究課題名（英文）Research on representation of the Emperor and the Imperial Family with a focus on popculture.

研究代表者
茂木　謙之介（MOTEGI, Kennosuke）

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：００８２５５４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：現代日本社会におけるポップカルチャーに現れた天皇・皇族・皇室イメージについて分析を行った。特に2010年代後半のイメージに関してはその成果の一部をまとめた『SNS天皇論』（講談社メチエ、2022）を上梓し、また1980年代から2000年代にいたるそれについても分析と口頭報告を行い、それらにおいて展開していた想像力が現在の皇室をめぐるイメージを支えていた側面をもつことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2019年の令和への改元の際に顕著であったように、天皇・皇族・皇室は、現代日本社会を考察する上で不可避のテーマであるが、現在のメディア状況においてその表象の持つ意味は更に大きくなっている。実態以上にそのイメージが人びとの皇室をめぐるリアリティを形成している側面があり、その一端を1970年代以降特にその存在感を増しているポップカルチャーは支えている。これらの様相を明らかにすることで現代における天皇・皇族・皇室をめぐる想像力の在り様の一端を示すことが出来ると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I analysed the images of the Emperor, the Imperial Family and the Imperial Household that appear in pop culture in contemporary Japanese society. Particularly with regard to the images of the late 2010s, part of the results were compiled in the book SNS Emperor Theory (Kodansha Metier, 2022). I also analysed the images from the 1980s to the 2000s and made an oral report on them, and clarified that the imagination that developed in those periods supported the current images of the Imperial Family.

研究分野：表象文化論

キーワード：天皇　皇族　皇室　表象　ポップカルチャー　オカルト　スピリチュアリティ　ナショナリズム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景
2010 年代以降、ポップカルチャーにおける天皇表象の数は増加傾向をたどっている。これらは時に皇室に関するオカルト的想像力を喚起し、また時に同時代の歴史認識問題を浮き彫りにするものであり、現在の皇室をめぐる状況を考察する上で欠かすことのできないものであり、この状況を分析することが本研究の背景である。

２．研究の目的
本研究は、戦後から現代の天皇・皇族・皇室の表象について、特にポップカルチャーにおけるイメージを中心的に検討し、その様相を明らかにすることを目的としている。
本研究では特に昭和天皇と皇族女子の表象を中心的に検討し、同時代の主要メディアや絵画・映画・文学における天皇・皇族・皇室表象と比較を試み、それらを通して従来の近現代天皇制研究を刷新することを目指すものである。

３．研究の方法
基本的に天皇・皇族・皇室を描いたポップカルチャーのコンテンツに注目し、それらの収集を行うとともに表象分析を行い、同時代の様々な文脈とも関連させて考察を行った。

４．研究成果
本研究課題においては、特に 2000 年代以降のポップカルチャーにおける天皇・皇族・皇室の表象の様態を確認し、それらが如何に現在の日本社会における天皇・皇族・皇室イメージに資しているのかについて明らかにし
まず、ポップカルチャーと隣接し得る様々な想像力が如何に展開していたのかについて、論文「〈正統〉と〈神聖〉の在りかー戦後天皇（制）をめぐる〈偽〉なるものの想像力ー」（『ユリイカ』52(15)、2020 年 11 月）および論文「「慰霊」する「弱い」天皇の誕生―1994 年小笠原諸島行幸啓の検討から―」（『世界史研究論叢』(10)、2020 年 10 月）において明らかにした。これらの研究によって戦後以降の天皇を巡るイメージの諸相を分析した。
次に個別具体的なポップカルチャーの分析を行った。口頭報告「monsrtum の物語―天皇映画としての『シン・ゴジラ』―」（ヒーロー表象研究会、2022 年 2 月 1 日、於オンライン）や口頭報告「『夜叉ヶ池』from 1913 to 1979 (feat.2021)」（京都ヒストリカ国際映画祭、022 年 10 月 30 日、於京都文化博物館）、口頭報告「天皇マンガの可能性 －弱者性・スピリチュアリティとジェンダーー」（日本マンガ学会カトゥーン部会 2023 年度第 3 回研究会、2023 年 7 月 23 日、於オンライン）を得たほか、論文「「魔的なもの」の復活――荒俣宏『帝都物語』論」（『現代思想』51(10)、2023 年 8 月）、口頭報告「ベトナム戦争と妖怪 ―「ゲゲゲの鬼太郎 ベトナム戦記」をめぐって―」（冷戦期日本文学研究会 2023 年 11 月 18 日、於東北大学）および論文「第 13 章 “オカルト天皇（制）”論序説――一九八〇年代雑誌「ムー」の分析から」（怪異怪談研究会監修／茂木謙之介・小松史生子・副田賢二・松下浩幸編著『〈怪異〉とナショナリズム』青弓社、2021 年 11 月）、MISC「「平成流」を戯画化する、あるいは〈怪異〉と犠牲のナショナリズム」（TOKYO ART BEAT、2022 年 11 月、https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/suzume-tojimari-movie-review-2022-11 ）などを上梓し、これらの成果の中間的なまとめとして学術書『ＳＮＳ天皇論 ポップカルチャー=スピリチュアリティと現代日本』（講談社選書メチエ、2022 年 4 月）を得ることが出来た。
また、関連する問題系としてポップカルチャーにおける天皇表象とオカルティズム／スピリチュアリティとの親和性に気づき、そこに基づく研究成果を得ることが出来た。論文「第 7 章〈怪異〉からみる二・二六事件――北一輝と対馬勝雄におけるオカルト的想像力」（怪異怪談研究会監修／茂木謙之介・小松史生子・副田賢二・松下浩幸編著『〈怪異〉とナショナリズム』、青弓社、2021 年 11 月[大道晴香と共著]）の他、口頭報告「「天皇の祈り」言説の展開について―平成期を中心に―」（象徴天皇制研究会、2023 年 2 月 19 日、於日本橋ライフサイエンスビルディング）や口頭報告「現代日本における「王の奇跡」―「スピリチュアル」な天皇を巡る想像力について―」(オカルティズムと現代スピリチュアリティ――最新の研究動向、2023 年 2 月 3 日、於東北大学）によって、現代の皇室をめぐる想像力の一端を明らかにすることが出来た。
加えて、現代のメディア状況のなかにおける天皇表象を思考するなかで、ソーシャルメディアにおける皇室表象についても分析を行い、成果を得ることが出来た。前述の学術書『ＳＮＳ天皇論 ポップカルチャー=スピリチュアリティと現代日本』(講談社選書メチエ、2022 年 4 月）のほか、口頭報告「关于 SNS 时代的天皇和皇室形象」（語言文化的融合与发展国际学术研讨会 2023 东北並国际語言文化研究基地年会、2023 年 11 月 5 日、於吉林大学（中国)）や MISC「SNS 시대의 천황제 약자 정치와 영성(spirituality)의 역학」（『日本批評』(30)、2024 年 2 月）を得られた。
さらに、関連する成果として、1970 年代以降の様々なポピュラーカルチャーを分析する機会に恵まれたため、それらに関連する成果として、論文「須永朝彦と雑誌『幻想文学』」（『ユリイカ』53(11)、2021 年 9 月）および口頭報告「Aramata Hiroshi and the magazine culture of

1970s Japan」(EAJS 2023 conference Rel. 11 The occult in postwar Japan: new perspectives、2023年8月19日、於オンライン）を得ることが出来た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 茂木謙之介	４．巻 53(11)
２．論文標題 須永朝彦と雑誌『幻想文学』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 229-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 茂木謙之介	４．巻 52(15)
２．論文標題 〈正統〉と〈神聖〉の在りかー戦後天皇（制）をめぐる〈偽〉なるものの想像力ー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 279-287
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 茂木謙之介	４．巻 10
２．論文標題 「「慰霊」する「弱い」天皇の誕生―1994年小笠原諸島行幸啓の検討から―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 世界史研究論叢	６．最初と最後の頁 56-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 茂木謙之介	４．巻 52(12)
２．論文標題 政治とアリスとユートピア――初期別役実テクストと〈幻想文学〉の共時性について ユリイカ 2020年10月臨時増刊号 総特集＝別役実の世界―1937-2020― 茂木謙之介	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 192-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 茂木謙之介
2．発表標題 「祈る」天皇の言説史序説 ―明仁天皇「おことば」を導きに―
3．学会等名 方法論懇話会シンポジウム「宗教＝歴史実践をひらく」
4．発表年 2022年

1．発表者名 茂木謙之介
2．発表標題 現代日本における「王の奇跡」―「スピリチュアル」な天皇を巡る想像力について―
3．学会等名 オカルティズムと現代スピリチュアリティ――最新の研究動向
4．発表年 2023年

1．発表者名 茂木謙之介
2．発表標題 「天皇の祈り」言説の展開について―平成期を中心に―
3．学会等名 象徴天皇制研究会
4．発表年 2023年

1．発表者名 茂木謙之介
2．発表標題 雑誌『幻想文学』における須永朝彦
3．学会等名 日本比較文学会東北支部 第23回比較文学研究会
4．発表年 2021年

１．発表者名 茂木謙之介
２．発表標題 雑誌『幻想文学』における澁澤龍彦 ―「晩年」のシブサワ・イメージと 「死後の生」―
３．学会等名 第５回澁澤龍彦研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 茂木謙之介
２．発表標題 monsrtumの物語―天皇映画としての『シン・ゴジラ』―
３．学会等名 ヒーロー表象研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 茂木謙之介
２．発表標題 吾等は如何にして「遠隔人文社会科学知」を構築せしか―人文社会科学系科目112報の実践報告から―
３．学会等名 政治社会学会第3回オンライン研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

１．著者名 茂木 謙之介	４．発行年 2022年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 272
３．書名 SNS天皇論　ポップカルチャー＝スピリチュアリティと現代日本	

１．著者名 伴野 文亮、茂木 謙之介	４．発行年 2022年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 208
３．書名 日本学の教科書	

１．著者名 怪異怪談研究会、茂木 謙之介、小松 史生子、副田 賢二、松下 浩幸	４．発行年 2021年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 376
３．書名 〈怪異〉とナショナリズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関